

両親間葛藤・情緒的交流が子どもの適応に与える影響 —COVID-19の影響の検討もあわせて— (中間報告)

筑波大学人間総合科学研究科 廣瀬 愛希子
筑波大学人間系 濱口 佳和

The effect of interparental conflict and positive interaction on children's adjustment: Examining the effect of the COVID-19 pandemic

Graduate School of Comprehensive Human Sciences, University of Tsukuba,

HIROSE, Akiko

Faculty of Human Sciences, University of Tsukuba, HAMAGUCHI, Yoshikazu

要約

両親関係は子どもの発達にとって重要な要因である。両親関係の子どもの適応への影響性の研究において、両親間葛藤の影響ばかりが焦点化され、両親関係のポジティブな側面が子どもの適応に与える影響についてはほとんど検討されてこなかった。しかし、両親間の情緒的交流の欠如は、両親間葛藤と同じくらいに子どもの適応に影響を与える重要な要因であることが指摘されている。そこで、本研究は、両親間葛藤に加えて、両親間の情緒的交流が、青年の適応に与える影響を検討することを目的とする。また、昨今は、COVID-19 流行下で DV など家庭内の問題が増加しており、子どもへの影響が懸念されている。そこで、本研究では、COVID-19 流行による生活の変化やストレスが、両親関係や子どもの適応に与える影響もあわせて検討する。

【キー・ワード】 両親関係, 両親間葛藤, 両親間交流, 青年

Abstract

Interparental relationship is an important factor in child development. Studies of the effect of interparental relationship on children's adjustment have focused only on the effect of interparental conflict. Therefore they have rarely examined the effect of positive aspects of interparental relationships on children's adjustment. However, it has been pointed out that the lack of interparental positive interaction is as important a factor that affects children's adjustment as the interparental conflict. The purpose of this study is to examine the effect of interparental positive interaction and interparental conflict on adolescent adjustment. Recently, family problems, such as domestic violence, have increased during the COVID-19 pandemic, and

there are concerns about the adverse effect on children. In this study, we also examine the effect of changes in life and stress caused by the COVID-19 pandemic on interparental relationships and children's adjustment.

【Key words】 Interparental relationship, Interparental conflict, Interparental positive interaction, Adolescents

問題と目的

近年、離婚や面前 DV などの両親関係の問題が多く発生し、子どもへの影響が懸念されている。先行研究から、両親間葛藤は子どもにとって苦痛が大きく、子どもの内在化、外在化問題などの適応問題につながることを示されている (Cummings, Davies, & Campbell, 2000 松浦訳 2006)。

これまでの先行研究の問題として、両親間葛藤の影響ばかりが焦点化され、その他の両親関係の側面の影響についての検討が不十分であったことがあげられる (Vaez, Indran, Abdollahi, Juhari, & Mansor, 2015)。特に、両親関係のポジティブな側面が子どもの適応に与える影響についての検討はほとんどなされていない。先行研究では、両親間の情緒的交流の欠如は、両親間葛藤と同じくらいに子どもへの影響性が大きいことが示唆されている (Cummings et al., 2000 松浦訳 2006)。また、Beach (1995) は、夫婦間の肯定的なコミュニケーションが少ないという子どもの認知が、子どもの適応問題の重要な予測変数になると報告している。さらに近年は、保護要因の観点からも、夫婦関係のポジティブな側面が子どもの適応へ与える影響を検討することが求められている (Vaez et al., 2015)。

そこで本研究は、両親関係のポジティブな側面として両親間の情緒的交流に着目し、両親関係が子どもに与える影響について、両親関係の子どもへの影響過程を説明する主要理論の情緒的安定性理論 (Emotional Security Theory, Davies & Cummings, 1994) のモデルに基づく検討を行う。具体的には、両親間の情緒的交流および葛藤が、両親関係の情緒的安定性を介して、青年期の子どもの適応に与える影響を検討する。

さらに、昨今は、COVID-19 流行下で夫婦間の DV が増加しており、子どもへの影響が懸念されている (Campbell, 2020)。そこで、本研究は、COVID-19 流行による生活の変化やストレスと夫婦関係、子どもの適応との関連もあわせて検討する。

方法

対象者

青年期の子どもとその親を調査対象者とする。そのうち、現在両親と居住しているまたは、過去 1 年以内にその経験がある青年および、青年期の子どもをもつ母親または父親で、現在配偶者・子どもと居住しているまたは、過去 1 年以内にその経験がある者を分析対象者とする。

手続き

許可が得られた学校にて、授業時間の前後などを使い、教員により子ども用質問紙を実施する。保護者向けの調査の説明文書を生徒が持ち帰り、文書を読み調査の協力を了承した保護者が、文書に記載された URL からウェブ上の質問紙にアクセスして回答を行う。質問紙に回答した保護者には謝礼として 500 円の金券を贈呈する。

調査内容

子ども用質問紙 (a) 基本情報 (学年, 年齢, 性別, 同居する家族など), (b) 子どもが認知した夫婦間葛藤 (山本・伊藤, 2012) の一部, (c) 子どもが認知した両親間交流 (廣瀬・濱口, 印刷中 a) を修正したもの, (d) 両親関係の情緒的安定性 (廣瀬・濱口, 印刷中 b) の一部, (e) 改訂・自己知覚尺度日本語版児童期版 (眞榮城・菅原・酒井・菅原, 2007) の「全体的自己価値観」, (f) 児童用抑うつ自己評価尺度 (DSRS) 日本語版の短縮版 (並川他, 2011), (g) 小学生用 P-R 攻撃性 (坂井・山崎, 2004)。

親用質問紙 (a) 基本情報 (年齢, 性別, 家族構成, 夫婦関係への満足度, 葛藤の頻度, 世帯年収など), (b) Communication Patterns Questionnaire 日本語版 (横谷・長谷川, 2011) の一部, (c) 夫婦間コミュニケーション態度 (平山・柏木, 2001) の「共感」, 「無視・回避」, (d) 両親の夫婦間葛藤 (氏家他, 2010) の一部, (e) 結婚コミットメント (伊藤・相良, 2015) の「人格的コミットメント」, 「諦め・機能的コミットメント」, (f) COVID-19 による生活の変化やストレス (米国国立衛生研究所が提供する COVID-19 の影響を測定する Toolkit の“The Coronavirus Health Impact Survey; CRISIS” (<https://www.phenxtoolkit.org/covid19/>) の一部と修正したもの), (g) 日本版 CBCL/4-18 (井潤他, 2001) の「ひきこもり」, 「不安/抑うつ」, 「攻撃的行動」。

倫理的配慮

本調査は、筑波大学人間系研究倫理委員会の承認を受けて実施された。調査対象者へは、調査への回答の自由意志が尊重されることや、回答を止めることで不利益を受けることはないこと、回答は研究以外の目的では使用せず、個人が分かる形で公表しないことなどを質問紙のフェイスシートおよび口頭で説明した。また、単親家庭の生徒など回答が難しいと予想される調査対象者への配慮として、質問紙の最初のページで調査内容には家族や両親について尋ねる項目があることを断り、回答が難しいと感じた場合、家族に関わらない内容のページへ飛ぶよう教示した。

現在の進捗状況

現在、中学校 2 校と高等学校 1 校で許可を得て、調査を実施している。今後は、調査会社を用いたデータ収集も行う予定である。データ収集後、データ分析を行う。

引用文献

- Beach, B. (1995). *The relation between marital conflict and child adjustment: An examination of parental and child repertoires*. Unpublished doctoral dissertation, West Virginia University, Morgantown.
- Campbell, A. M. (2020). An increasing risk of family violence during the Covid-19 pandemic: Strengthening community collaborations to save lives. *Forensic Science International: Reports*, 2, 100089.
- Cummings, E. M., Davies, P. T., & Campbell, S. B. (2000). Children and the marital subsystem. *Developmental psychopathology and family process: theory, research, and clinical implications* (pp. 251-298). New York: The Guilford Press. (カミングス, E. M.・デイヴィーズ, P. T.・キャンベル, S. B. 松浦 素子 (訳) 子どもの発達と夫婦のサブシステム 菅原 ますみ (監訳) (2006). 発達精神病理学—子どもの精神病理の発達と家族関係— (pp. 302-350) ミネルヴァ書房)
- Davies, P. T., & Cummings, E. M. (1994). Marital conflict and child adjustment: An emotional security hypothesis. *Psychological Bulletin*, 116, 387-411.
- 平山 順子・柏木 恵子 (2001). 中年期夫婦のコミュニケーション態度：夫と妻は異なるのか？ 発達心理学研究, 12, 216-227.
- 廣瀬 愛希子・濱口 佳和 (印刷中 a). 子どもからみた両親間のやりとりに関する探索的検討—両親間交流尺度作成の試み— 筑波大学心理学研究
- 廣瀬 愛希子・濱口 佳和 (印刷中 b). 両親関係の情緒的安定性が青年の適応に与える影響—日本語版 SIS の作成を通して— 心理学研究
- 井澗 知美・上林 靖子・中田 洋二郎・北 道子・藤井 浩子・倉本 英彦...名取 宏美 (2001). Child Behavior Checklist/4-18 日本語版の開発 小児の精神と神経, 41, 243-252.
- 伊藤 裕子・相良 順子 (2015). 結婚コミットメント尺度の作成—中高年期夫婦を対象に—心理学研究, 86, 42-48.
- 眞榮城 和美・菅原 ますみ・酒井 厚・菅原 健介 (2007). 改訂・自己知覚尺度日本語版の作成—児童版・青年版・大学生版を対象として— 心理学研究, 78, 182-188.
- 並川 努・谷 伊織・脇田 貴文・熊谷 龍一・中根 愛・野口 裕之・辻井 正次 (2011). Birleson 自己記入式抑うつ評価尺度 (DSRS-C) 短縮版の作成 精神医学, 53, 489-496.
- 坂井 明子・山崎 勝之 (2004). 小学生用 P-R 攻撃性質問紙の作成と信頼性, 妥当性の検討 心理学研究, 75, 254-261.
- 氏家 達夫・二宮 克美・五十嵐 敦・井上 裕光・山本 ちか・島 義弘 (2010). 夫婦関係が中学生の抑うつ症状におよぼす影響：親行動媒介モデルと子どもの知覚媒介モデルの検討 発達心理学研究, 21, 58-70.
- Vaez, E., Indran, R., Abdollahi, A., Juhari, R., & Mansor, M. (2015). How marital relations affect child behavior: review of recent research. *Vulnerable Children and Youth Studies*, 10, 321-336.

山本 倫子・伊藤 裕子 (2012). 青年期の子どもが認知した夫婦間葛藤と精神的健康との関連 家族心理学研究, 26, 83-94.

横谷 謙次・長谷川 啓三 (2011). Communication Patterns Questionnaire (CPQ) 日本語版の検討—尺度の信頼性と妥当性— カウンセリング研究, 44, 244-253.

